

仕合わせの和



第179号
H. 29. 2. 1
(毎月1日発行)

全国の 霊跡寺院巡り

住職 谷川寛俊

私がいつもし楽しんでみに行っている日蓮宗新聞(毎月3回発行)に『千か寺参りへ行こう』という、平山徹氏連載の記事があります。講読されている方はご存じだろうと思います。ところで、その著者の平山氏は朝日新聞社の現職記者でもあり、休日を利用して全国の日蓮宗寺院だけを参拝し、「御首題帳(ごしゅだいちょう)」又は、「御朱印帳(ごしゅいんちょう)」を持参しては、当初「千ヶ寺」を目標にされていたのですが、すでに7年前に達成され、今年1月現在で、なんと「1785ヶ寺」にも及び、今では「二千ヶ寺」を目標にされておられるそうです。

毎回、色々な体験談が書かれており、大変興味深く読んでいます。ですが、考えてみれば、最近色んな人が、県内外から御朱印帳を持参して、突然真成寺にも尋ねてこられる人が増えていることに気づかされました。世間では「御朱印ガール」と呼ばれる、女性のファンも増えていることが報道番組や雑誌にも多く取り上げられている様子も目にするのが多くなりました。真成寺を尋ねてこられた「御朱印収集ファン」の御朱印帳を拝見すると、宗旨宗派を問わず、各方面の有名寺院や神社等と一緒に書かれている御朱印帳だったりします。神社仏閣が身近な存在になることは歓迎致しますが、本来は、御朱題帳というくらいですから、御題目が書かれてある日蓮宗寺院だけの帳面として巡拝される事をお勧め致します。

そんなことを考えておりましたら、先月お檀家Nさんが八十六歳でお亡くなりになりました。Nさんは若い頃、仕事一筋でそれこそお仏壇に手を合わせるという事が殆ど無かった人でしたが、六十歳を過ぎた頃、心臓の大手術を無事に成功した頃から一変しました。両親から聞かされていたように、総本山である身延山へ一度お参りしないと死んでも死にきれないという思いで一度お寺からの団体に参加され、七面山にも登詣されました。手術後の身体で登ることが容易なことではありません。いま思えば、確かに二、三人の方と一緒に最後にユックリユックリ登り切られたことを覚えています。以来そのNさんは全国に五十六ヶ所ある霊跡寺院(日蓮聖人ゆかりの寺院)を2回にわたり自家用車で、時には奥さんと一緒に巡拝されたのでした。亡くなられた後仏壇から分厚い御首題帳が2冊出てきました。1冊は棺の中に納めました。この御首題帳は日蓮宗新聞社で発行しているもので、1頁目には菩提寺の住職の書く欄があり、その後、総本山身延山久遠寺をはじめ、日蓮聖人生誕の地である

「仕合わせの和」
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

千葉県誕生寺。お亡くなりになられた東京は池上本門寺など、その当時の貫首様が書かれた御題目が全て印刷されて1冊の本になっています。遠くは九州、佐賀県や熊本県、仙台や京都等々、全国の霊跡寺院を1度ならず2度までも参拝された足跡の証なのです。

我々日蓮宗の僧侶を含め、又全国の檀信徒を合わせても、おそらくNさんのような方は少ないのではないかと推察します。

生前中のNさんは日頃から口数少なく決して鼻に掛けない性格の方でした。今頃は必ずや日蓮大聖人様に労(ねぎ)らいと、お褒めの言葉を頂戴されているに違いありません。

この功德は、必ずやご本人は勿論のこと、子々孫々まで及ばされることでしょう。

Nさんの尊い浄行に改めて合掌申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

南無妙法蓮華経 三唱。

